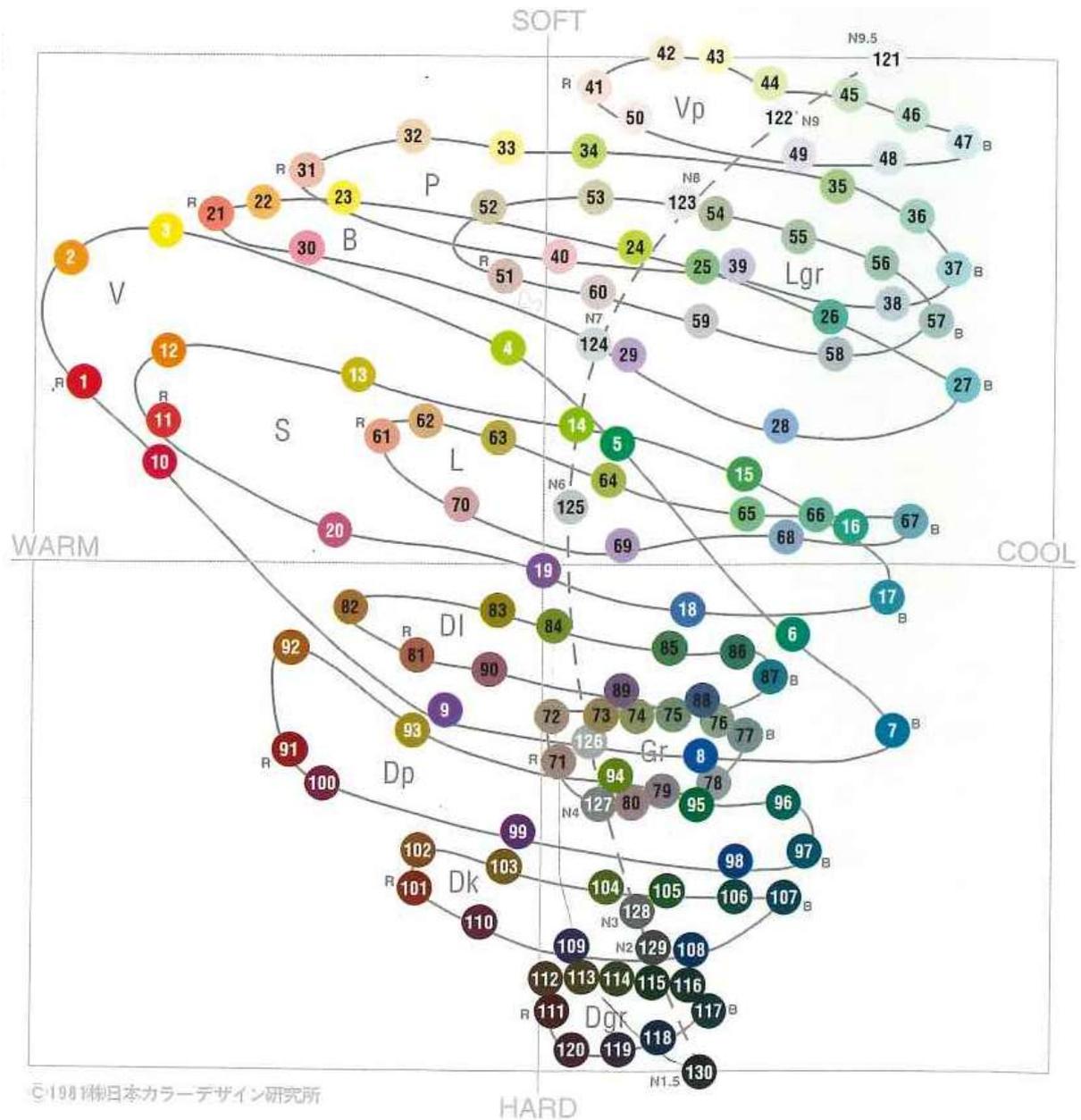


The background is a dynamic composition of various geometric shapes, including rectangles, squares, and parallelograms, scattered across the page. These shapes are rendered in a wide array of colors: red, blue, green, purple, yellow, black, and white. Some shapes are solid, while others are outlined. The overall effect is one of movement and depth, with shapes appearing to float or fall from the top of the frame.

**PICOLOR**  
beyond the color



## 単色イメージスケール

色に対して抱くイメージは人によって微妙に異なりますが、共通する部分も多く認められます。そのイメージの共通感覚を心理学的研究の蓄積で明らかにしたものが、イメージスケールです。

基本のイメージスケールは、イメージの判断基準である WARM-COOL、SOFT-HARD の座標軸上に単色、形容詞、形容動詞を表現した配色が配置されています。すべてのイメージスケールの元となっているものが、単色のイメージスケールで、130色がプロットされています。

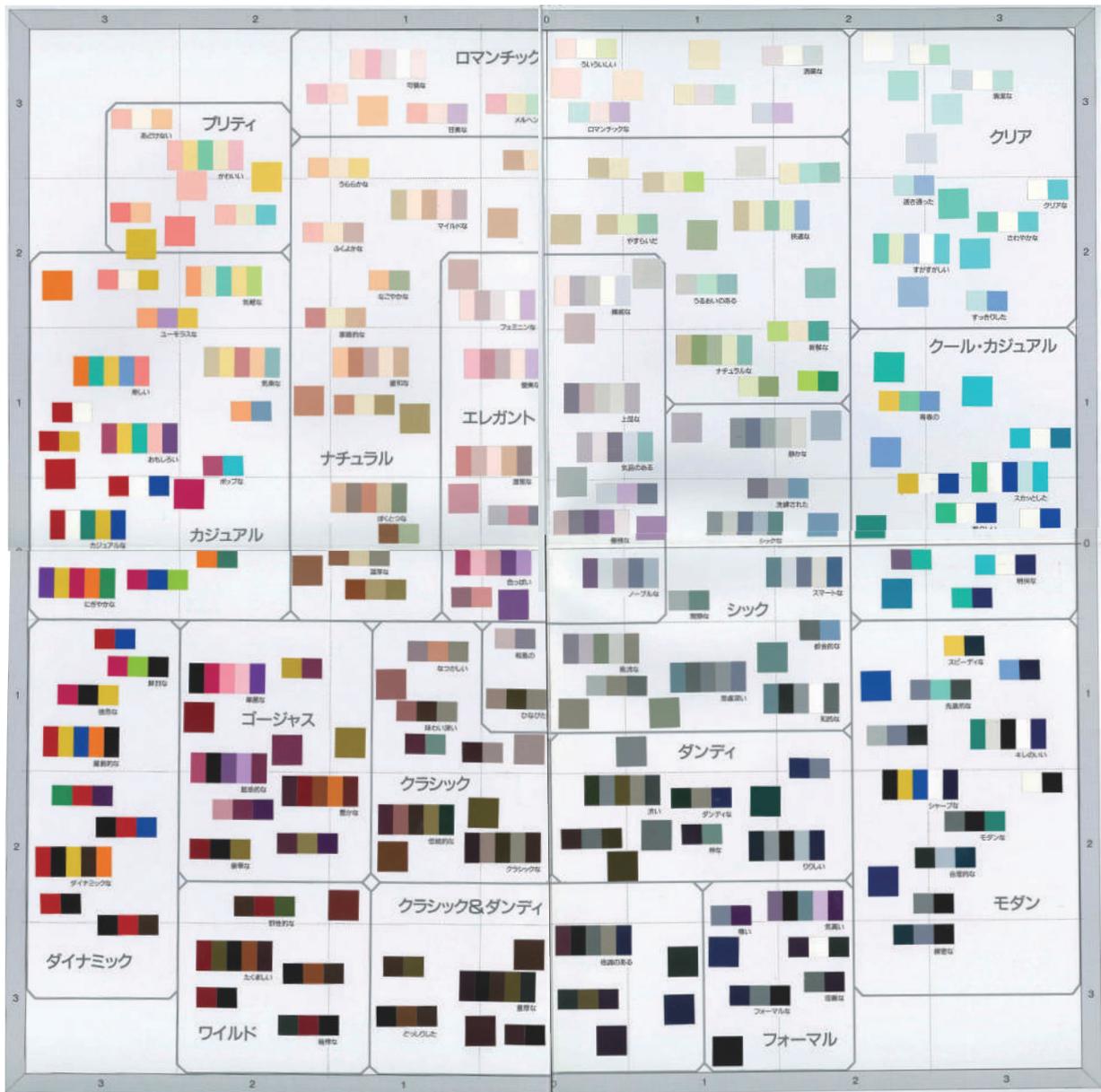
WARM (左) には赤やオレンジなどの暖色系

COOL (右) には青や青緑系などの寒色系

SOFT (上) 方向にベリーペール、ペールなどの淡いトーン

HARD (下) 方向にダークグレッッシュ、ディープなどの暗いトーン

スケール上で位置の近い色同士はイメージが近く、遠いものはイメージも遠い色ということになります。左右の下や、左上には何も無い空間がありますが、このあたりのイメージは単色では表現できないことが分かっています。



©2015 (株) 日本カラーデザイン研究所

## 5色配色イメージスケール

単色と同様、WARM-COOL、SOFT-HARDの2軸上に配色がプロットされています。

配色を使うことで、単色では表現できなかったイメージもあらわせるようになり、スケール全体に広がっています。

複数の色を組み合わせることで、単色よりも複雑で繊細なイメージの違いを表現することができます。

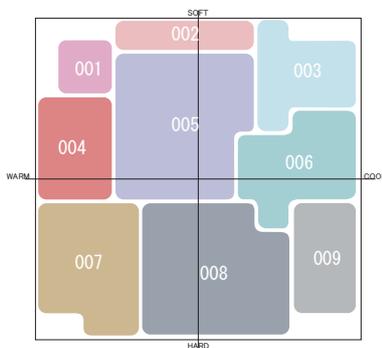
配色と言葉に限らず、言語や形といった他の様々な事象を同じフィールドで比較・分析することができます。

## ピカラ開発背景

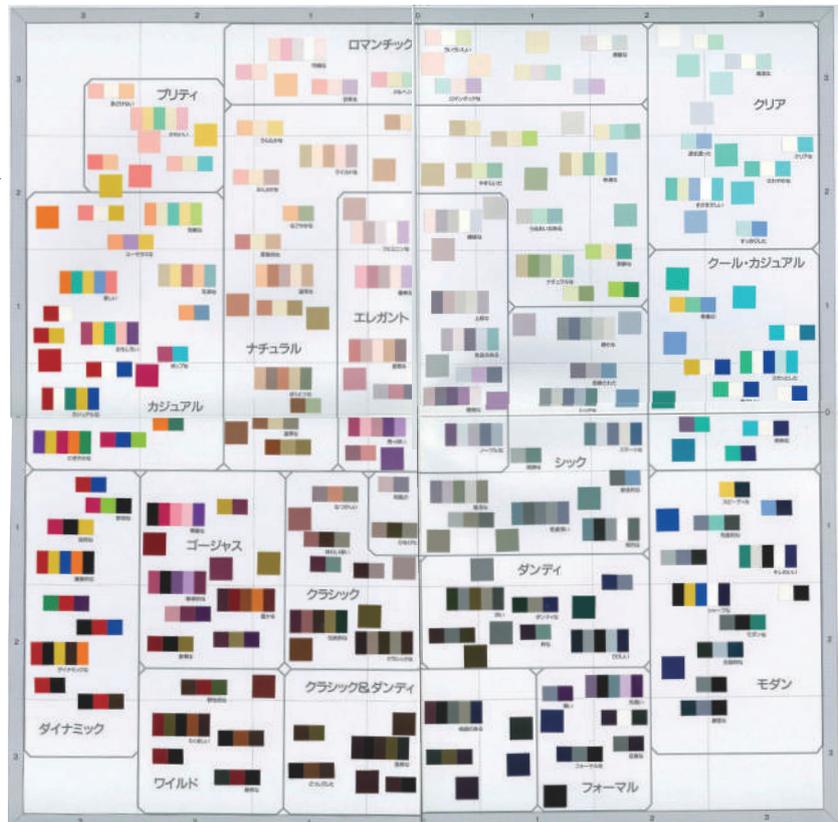
現在どのスタイルに特化しているか、どんなスタイルを求める女性をターゲットにするかによってカラー剤が開発されてきました。しかし、女性の求める“カワイイ”はお客様ごとに「なりたい」が異なります。「全てのなりたい可愛いに応えられるカラー剤が欲しい」そんな美容師様の声からピカラの開発がスタートしました。

<カワイイを形作っている9つのマトリクス>

9つのファッションイメージチャートに合わせて、お客様がどういったイメージを求めているのか、話す言葉からどういったスタイルが好きなのかを導き出すことができます。ヘアカラーも同様にそれぞれのスタイルに合うように変化させることがデザインや色の提案方向を考えやすくします。



横：ウォーム・クール / 縦：ソフト・ハードの2軸で心理的に分類し、9つのファッションイメージチャートを位置づけます。それに合わせて色を展開させ、全てを作り出すカラー剤があれば現在できている色味はもちろんのこと、今後求められる流行色も作り出す事ができます。



©2015 (株) 日本カラーデザイン研究所

## アルカリカラーのタイプ一覧

オートマチックカラー

設計形カラー

ピカラ

アンダーコントロール、色彩コントロールを1本で対応可能。ブラウンベースでは低、中明度の色味を感じにくい。失敗の少ないカラー。

アンダーコントロール、色彩コントロールをシステム化し、幅広いデザイン作りを可能にする教育形サポートカラー。

アンダーコントロール、色彩コントロールを絵の具を使うような感覚で対応できるように、薬剤を明度と彩度に分けることで直感的なカラーリングを可能にするカラー。

## 絵の具のように使えるピュレカラー

「もっと楽しんで使える、作りたい色を作ることができる」

「アシスタントからトップスタイリストまで個人のセンスを発揮しながらカラーを楽しむ」

「トレンドカラーやお客様が求める“カワイイ色”を提案出来るようになる」

学びやすい、だけど奥が深い。それがピカラです。

布 × ピカラ



## 施術に入る前に、こんなことはありませんか...？ 注意すべき8点

1. お店が汚い・・・セット面の足元や、壁紙やカーテンが黒ずんでいませんか？
2. お店の中が臭い・・・薬剤の匂いが籠っていませんか？お客様は意外と敏感です。
3. トイレが不快・・・清潔感はもちろんですが、アメニティが揃っていると◎
4. あなたはカワイイ（カッコイイ）ですか？・・・スタイルやカラーはもちろん、清潔感のある印象を与えましょう。
5. 周りのスタッフさんはカワイイ（カッコイイ）ですか？・・・まさかバサバサでポロポロの髪スタッフさんはいませんか？
6. クロスは清潔ですか？・・・臭い・汚い・濡れている。もう0点です。クロスは消耗品です。悩んだら新品に交換しましょう。
7. ハケ、カップ、ダッカール・・・ハケの毛先は整っていますか？ダッカールにカラー剤溜まっていますか？
8. お客様へいつもと違う提案できていますか？・・・「いつもと同じで」というお客様だって本当はもっと提案が欲しいんです。

## テクニカル基礎

### 染色前のポイント

#### pH 調節

カラー剤は pH が高くなる程浸透しやすくなるためシャンプーは中性～弱アルカリタイプがオススメです。

#### 水分コントロール

ケアの観点から、薬剤を作用させるためには適度な水分が必要です。水分が不足していると、ダメージの原因や色の染まりムラになったりします。※濡れ過ぎは NG。

#### パウダーオフ

W カラーを行う際にブリーチの粉（過硫酸塩）が髪の内部に残留し、カラーの発色を妨げたり、ムラになってしまったりすることがあります。しっかりとパウダーオフを行ってからカラーを行う事を心掛けましょう。

#### 頭皮ケアオイル

カラー剤は人体に作用を与える〔医薬部外品〕です。決して頭皮に優しい薬剤ではありません。過去にカラー剤で頭皮がしみたり、かゆくなったりした事がないお客様へも頭皮ケアオイルを使用しましょう。お客様への大切な気遣いです。

#### 使用カラー剤の毛束チェック

どんな色になるかを施術を行う前に毛束で確認しておきましょう。  
お客様に満足して頂く為だけでなく新しい色味、新しい発見がそこにはあります。

#### カラー剤の混ぜる方向

北半球にいる場合、台風も左周りで発生する等地球の自転の関係により左回転に力が働きやすくなると言われています。内側に力が働きやすくなり粒子レベルでしっかりと薬剤が混ざり綺麗に発色するという説があります。

### 染色中のポイント

#### 塗布量

塗布量が多い程染色力は上がります。しっかり染めたい場合は塗布量はいつもより少し多く使いましょう。

#### 温度管理

浸透する力やスピードが大きく変わります。ある程度の温度を保つ必要がありますが、高すぎると過剰反応で色持ちが悪くなります。カラー剤の開発は 25 度で行われています。

### 染色後のポイント

#### pH 調節

PH 4.5～5.5 の等電点に髪の毛の状態を戻す事で染料分子を閉じこめて色持ちを良くします。

#### 毛髪補修と保護

ケラチタンパク、CMC、各種アミノ酸、糖類を補給し、ダメージした表面を補強するには 18MEA 類似成分や、油分、高分子 PPT がオススメです。

## ヘアカラー基礎

### 染料の種類

#### 染料中間体

ex. パラフェニレンジアミン

酸化重合して発色する染料で、2剤をミックスするまでは色は目に見えてきません。主に褐色を主体とした色で、黄褐色、暗青褐色、赤褐色などの色があります。



#### カプラー

ex. レゾルシン

中間体と結合することで発色しますが、単体での酸化重合・発色はありません。酸性に弱い種類もあるため、寒色系のカラー後は酸性系のシャンプーやトリートメントを使用するのは避けた方が良いです。



#### 直接(ニトロ)染料

ex. パラニトロオルトフェニレンジアミン

最初から色が目に見える成分で、基本的に酸化重合はしません。主に暖色系となる染料ですが、酸化重合した染料より分子量が小さいため色が入りやすく、高彩度を表現することができます。



### アルカリ剤の種類と特徴

モノエタノール	不揮発性のため臭いは少ないが、毛髪の残留が高い。反応が遅く、ブリーチ力は弱い。
アンモニア	揮発性が高いため刺激臭はあるが、毛髪への残留が少ない。反応が早く、ブリーチ力が強い。
重炭酸アンモニウム	薬剤の pH を下げる効果を持ち、色がくすみやすく、ダメージの蓄積は少ない。

### 酸化染毛剤の仕組み

酸化染料  
(中間体・カプラー・直接染料)

アルカリ剤

基剤

水



過水

基剤

水



1剤中のアルカリ剤により膨潤した毛髪内部へと薬剤が浸透します。2剤のpHが1剤と混ざることによってアルカリ性に傾き、過酸化水素が不安定になり水と活性酸素へと分解します。その活性酸素が毛髪中のメラニン脱水分解することでリフトアップし同時に酸化染料を酸化重合させ発色します。

#### 同時進行



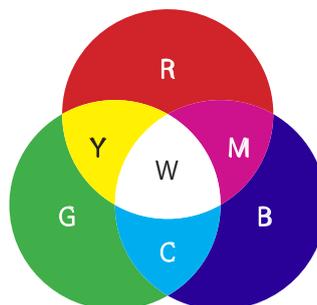
## 色彩学とヘアカラー

### 加法混色と減法混色

#### ■ RGB カラー（加法混色）

光の3原色は〈赤（レッド）・緑（グリーン）・青紫（ブルー）〉で、混ぜると明るくなり、全てを均等に混ぜると白色光（白 = ホワイト）になるため、引き算の混色と呼ばれています。

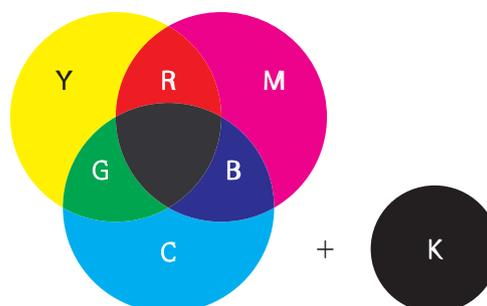
※主にテレビ画面やパソコン画面 web 用のホームページを製作する場合



#### ■ CMYK カラー（減法混色）

ヘアカラー剤の他、顔料、絵具、印刷インク、塗料などの色材の3原色は〈マゼンタ（赤紫）・イエロー（黄）・シアン（青緑）〉で、これらを混ぜると次第に暗くなり、全てを均等に混ぜると黒（ブラック）になるため、足し算の混色と呼ばれています。

※主に印刷物印刷物を製作する場合は CMYK



#### ■ ヘアカラー

ヘアカラーについては減法混色で、3原色〈赤（レッド）・黄色（イエロー）・青（ブルー）〉を全て混ぜるとブラウンになります。

### 色相環と補色について

#### ■ 色相環

3原色を混ぜていった色を並べたものを色相環（カラーサークル）といいます。

#### ■ 補色の関係

色相環でちょうど反対側に位置する色（反対色）同士を「補色の関係」といいます。補色同士は混ぜ合わせると無彩色（ヘアカラーの場合はブラウン）になるので、補色の関係を利用することで、毛髪のアンダートーンや残留ティントを打ち消しながら希望色を出せるようになります。



色の3属性

色相	明度	彩度	有彩色・無彩色
----	----	----	---------

赤、青、黄といった色味のこと。明度や彩度は一定にして、この色相だけ少しずつ変化させたものを表現したのが色相環です。

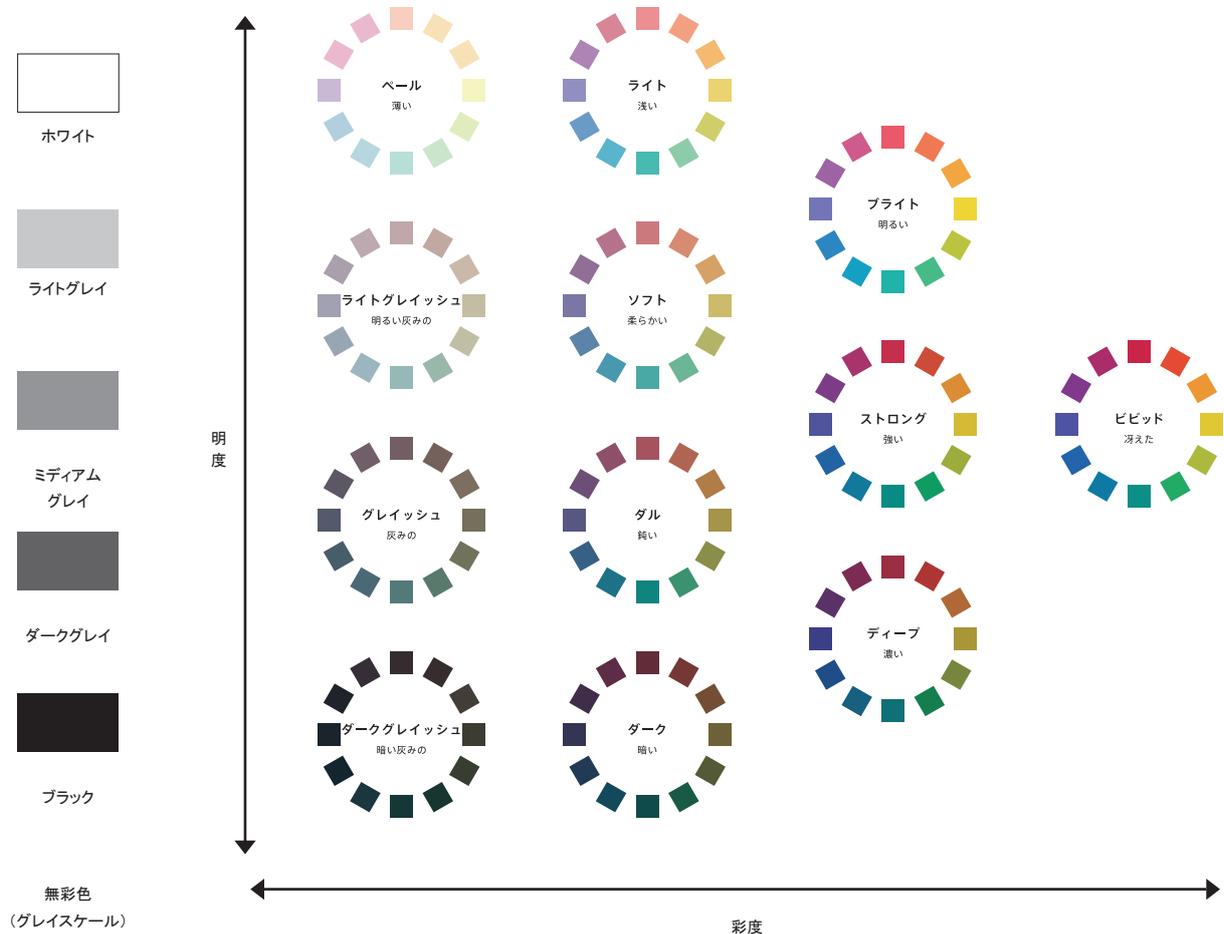
明るさの度合い。明度が最も高く明るい色が白、最も低く暗い色が黒です。グレイスケールはこの明度だけでできている、白～グレイ～黒までのスケールです。

色の強さ・弱さを表す鮮やかさの度合い。最も彩度の高い色を純色といい、これに色が加わるほど彩度が下がり、色は弱くなります。

赤、青、黄といった色味を持つ色を有彩色といい、色味を持たない黒・白・グレイのような色味を無彩色といいます。

トーン＝明度＋彩度

図の通り、中明度において彩度の表現の幅は最も広く、高明度や低明度においてはその幅は限られています。低明度では鮮やかな色や薄い色は出ず、高明度では深い色や濃い色は出ないため、明度により大きく影響を受ける彩度のコントロールは重要です。つまり、ヘアカラー施術において、求める色や印象に仕上げるためには、このトーンの理解が大切です。







## ピカラについて

### シンプルなベース設計



ブラック  
透け感

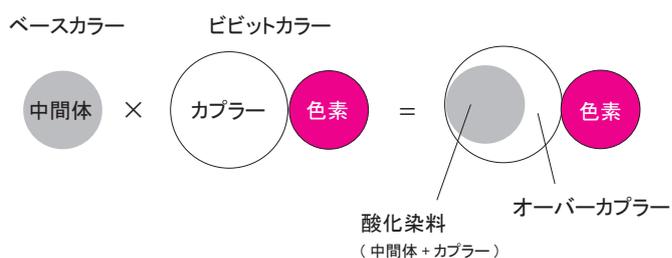
▲  
NB

ブラウン  
深み

通常のカラ剤のベースとして使用される NB（ニュートラルブラウン）を濁りのないベースにするためにブラックとブラウンを分けたシンプルな処方設定をおこないました。従来のカラーで行っていた W カラー（ブリーチ）により、メラニンを削り表現していた透明感のベースラインを使用する事でメラニンを大量に削る事無く表現する事が可能になりました。

注意：BK 単色での発色は濃いベージュ～薄いベージュになり、単品使用では透明感は余り感じられません。

### オーバーカプラー方式 （通常のカラ剤よりも多くのカプラーを処方）



#### ①強い色味

少量の MIX やクリアで薄めた際も、色味をしっかり感じられます。

#### ②アンダーカラーの影響を受けにくい

残留している中間体を利用して発色するので、アンダーを気にする事無くカラーが行えます。

#### ③MIX 時のにごりを防ぐ

ベースカラーとビビットカラーにそれぞれの役割を持たせる事で、MIX 時の濁り、くすみを防ぎます。

### アウトリフレクション処方（出してから反応がはじまる）



一般的なアルミチューブのカラー剤（当社）は、あらかじめ1剤の中に中間体とカプラーが混ざり合って作られています。その為、容器の中で発色が起こりはじめていました。

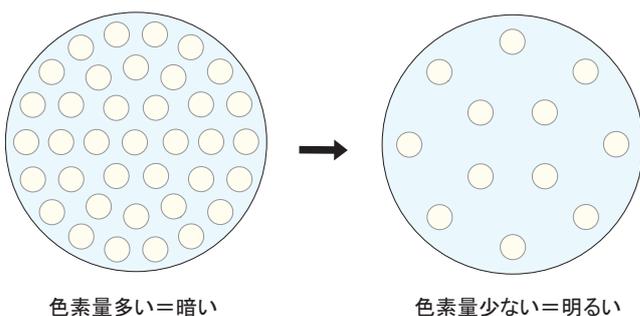
そこで、ピカラではベースカラーに中間体を、ビビットカラーにカプラーを主な設計としている為、カップの中ではじめて発色し MIX した色味を全て感じる事ができるようになりました。

#### 色素量と明度

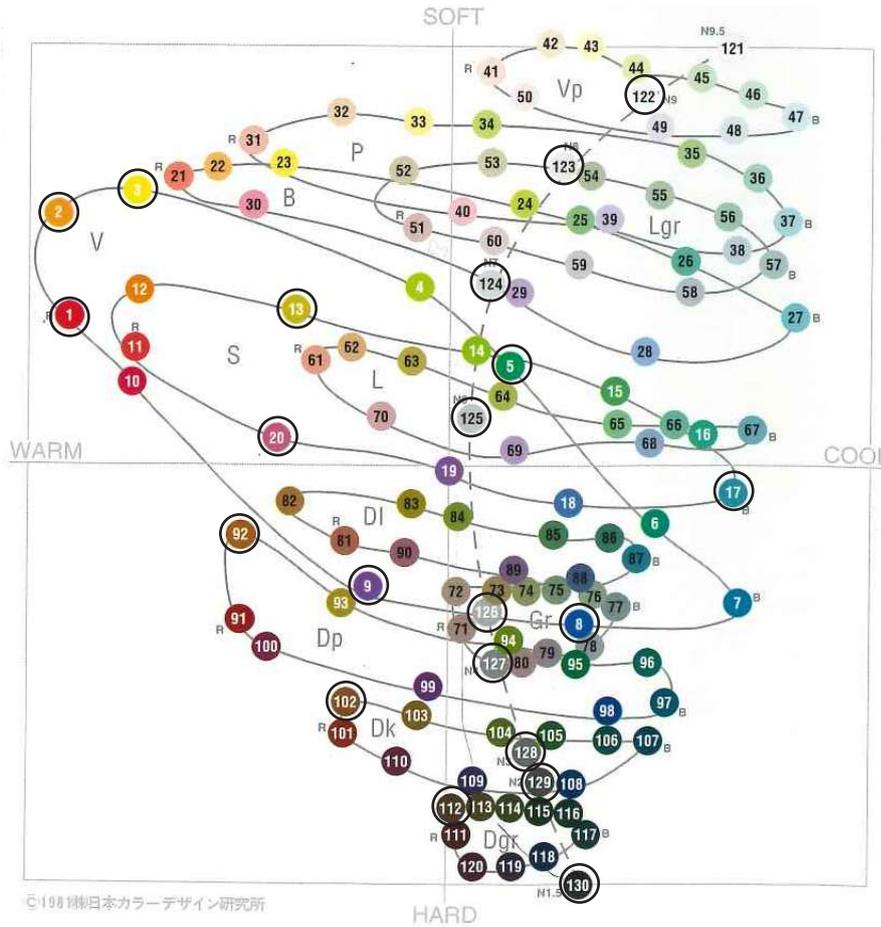
特に寒色系の場合（cyan / blue）単色使用では色素量が濃いため明度としては暗く感じてしまいます。

明度が欲しい場合はクリア剤等で薄めて使用する事をオススメします。

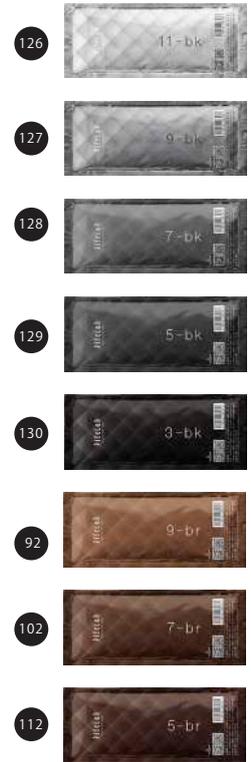
※p16 に詳細記載



ピカララインナップとポジション構成 ※近い色味の番号を記載しています。



ベースライン



ピビットライン ※単品でのレベル設定：8Lv



ハーモニーライン



2剤によるコントロール



新生部

角化したケラチンのため、構造が弱薬剤が浸透しやすい

中間未染部

角化後、酸化等の影響を受けて硬化しているため最も染まりにくい

毛先、ダメージ部

生活ダメージ・薬剤ダメージ(パーマ/カラー)の影響を受けて染まりやすい

4.5% (白髪は新生部でも6.0%使用がオススメ)      6.0% (寒色系の場合4.5%使用がオススメ)      3%~1.5% (寒色系の場合4.5%使用がオススメ)

比率	2:1	1:1	1:2	1:3
6%:1.5%	4.43	3.70	2.96	2.60

油分を20%アップ配合する事によりツツヤ、質感を再現しました。 ※自社比

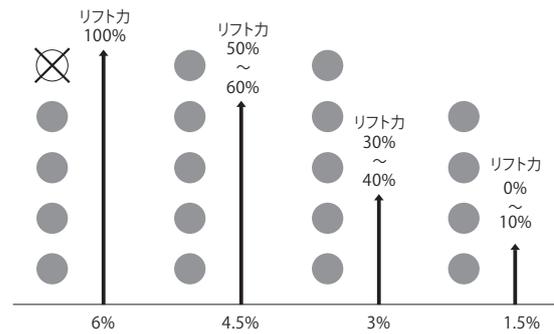
## ■ 2剤によるリフト力と発色力の違い ※染料を5個と仮定した場合

6%：発色力が強くリフト力も強い為、全て発色してもリフト力によって1個が分解され4個の弱い発色となります。

4.5%：リフト力が抑えられるため、5個しっかり発色します。リフト力もあるため、地肌付近や寒色系の毛先用に適しています。

3%… リフト力はかなり抑えられるため暖色系の毛先用や、ダメージ毛、細毛軟毛等に有効です。

1.5%… リフト力は弱いため発色と色持ちに注意が必要ですが、かなりのハイダメージ毛への使用に適しています。パール系の色味やホワイトアッシュなどへの相性が良いです。



※ブライミング処理に使う場合も上からOXを更に被せるため1.5%という低い%は計算しやすくなります。

## ピカラディフェンスライン

カラー剤は人体に作用を与える〔医薬部外品〕です。決して頭皮に優しい薬剤ではありません。過去にカラー剤で頭皮がしみたり、かゆくなったりした事がないお客様へも頭皮ケアオイルを使用しましょう。お客様への大切な気遣いを提案します。



スフィアラケシスオイル  
1000 ml

ホホバ油を高配合し、カラーやブリーチ前の頭皮保護と刺激緩和を行います。さらに、頭皮の過酸化脂質を取り除くクレンジング効果と、若さを保ちタンパク質を活性化させる「ラケシス」配合で頭皮の環境を整えます。

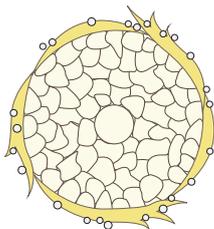


アルギニンパーフェクト  
1000 ml

Wカラーを行う際にブリーチ後の色ムらを軽減し、綺麗な発色をサポートするパウダーオフ剤。

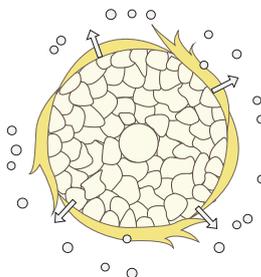
### ＜パウダーオフの仕組み＞

ブリーチパウダーに含まれる過硫酸塩はすすぎやシャンプーだけでは落としきれず、毛髪の表面に吸着したまま残った状態になり、Wカラーの際にムラや発色の悪さを引き起こしていました。



#### 通常ブリーチ後

毛髪表面にパウダーが残留し、その状態で酸リンス等で収れんを行うと毛髪表面についたパウダーをより吸着させてしまう事になります。



#### ブリーチ後アルギニンパーフェクト使用

アルカリ状態の毛髪にアルカリを塗布することで表面に付着しているパウダーを分散させ、粉を浮かせてとれやすい状態に持って行きます。そこから、シャンプーを行う事によりしっかりとパウダーを落とすことができます。



ブリーチ毛

使用なし

使用あり

使用方法：通常のシャンプーを行うようにしっかりと泡立てます。その後、シャンプーを行いパウダーを洗い流します。

※ブリーチ施術のみを行う場合はシャンプー後、水洗したのちバッファー剤等の後処理を使用して pH コントロールを行って下さい。



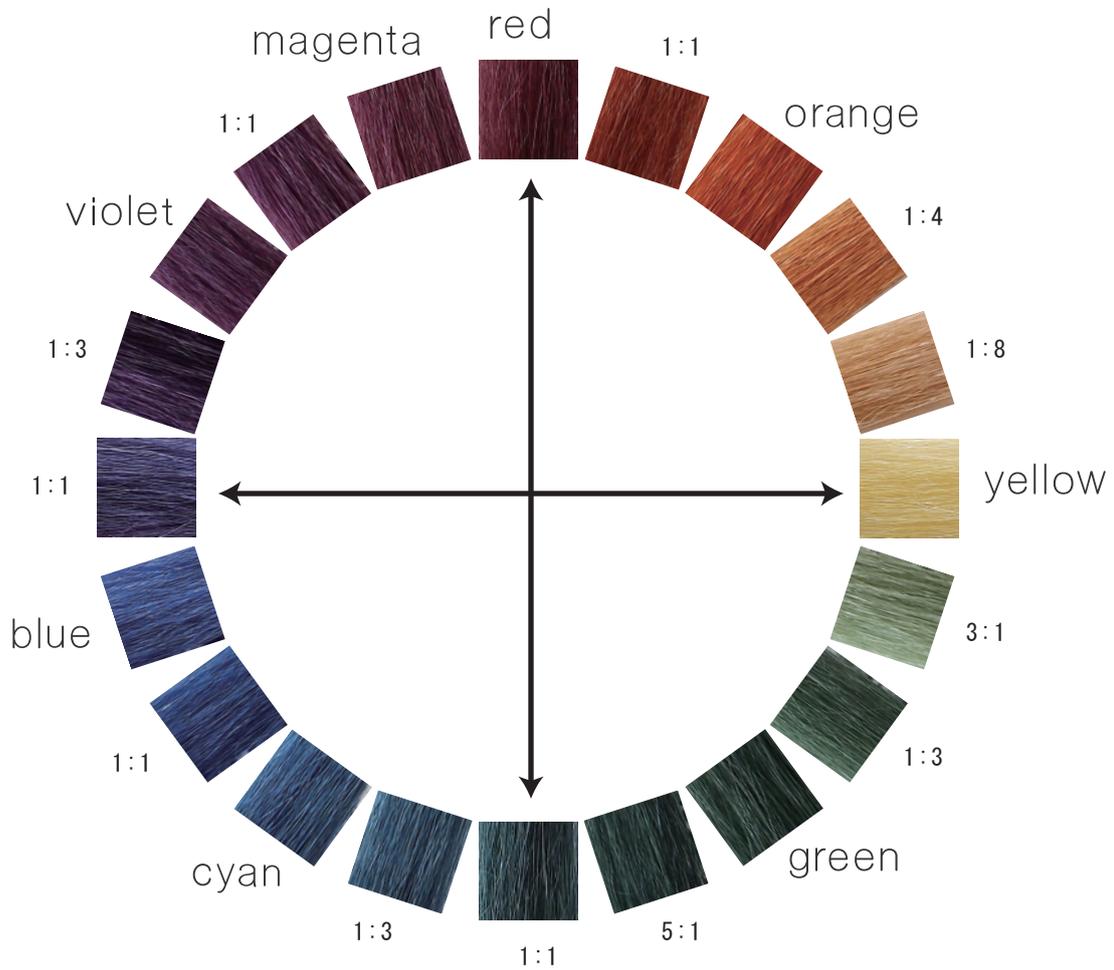
## ピカラ色相環と色の特徴

ビットラインで色相環を作れるよう色味の設計を行いました。

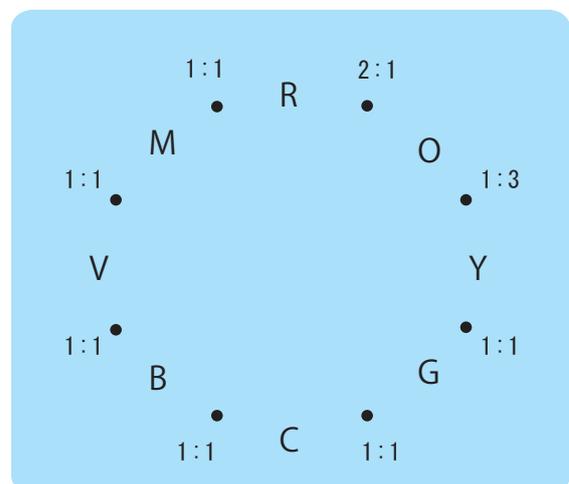
他の色味に比べてイエローは色素として弱いためイエローを感じさせたい場合は比率を増やすと良い。

(髪自体の持つイエローもあるため注意)

※白毛に塗布したイメージになります。

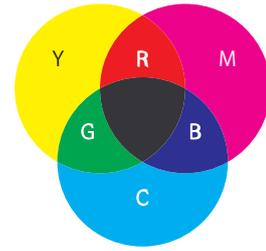


### <中間色の比率>



### ■気をつける MIX

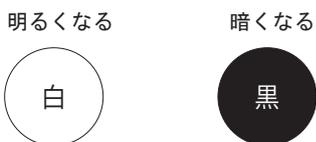
減法混色により3色「赤、青、黄」が全て入るとブラウンになります。  
そのためブリーチ毛などYを持つ髪に塗布を行うと補色の関係で沈みやすくなります。



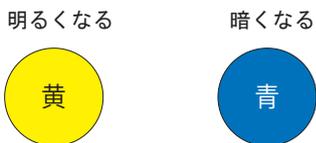
特に沈みやすい色味 : G×M / B×Y / V×G / C×Y ※より詳しい MIX レシピは WEB ページで

### ■ビットによる明度の感じ方

<絵の具では>



<ジアミン色素では>



色によって異なる明るさの違い

お客様の髪の明るさの感じ方は色によって大きく異なります。  
絵の具では白を混ぜると明るくなり、黒だと暗くなりますが  
毛髪上では黄が多くなると明るく見え、青が増えると暗く見えます。  
実際に、濃い黄色をいくら乗せたところで、明度は落ちません。  
反対に、濃い青を乗せると黒に近づいていきます。  
以上のことをふまえながら、明度コントロールをしていかなければ  
いけません。

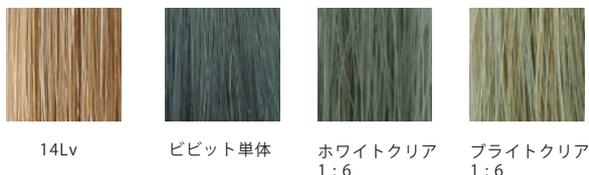
レベルは全て 8Lv 設定を行っていますが、同じ明度であっても感じ方が異なる場合があります。

色	red	orange	yellow	green	blue	violet	cyan	gold	magenta
想定レベル	7	8	11	6	5	7	6	10	7

## ■ ブライトクリア / ホワイトクリアの違い

ブライトクリア・・・リフト力を持った色の減力が強いクリア ※8Lv 設定  
 ホワイトクリア・・・明度はそのままに、彩度を調節するクリア

例) グリーン：クリア=1：6 オキシ6%



## ■ クリアとしても使える多彩な色味（特色）

パステル / プラチナ / グレージュはホワイトクリアやブライトクリア同様に薄め剤として使用可能。

ビビット：薄め剤=1：6 オキシ6%

※1：1の比率では薄め剤としての効果が弱い場合があります。



<各色薄まる特徴>※絵の具に例えた場合

	blue		magenta	
ビビット単体				
ホワイトクリア 水の役割、ビビットの色を薄めていく				
パステル 白い水の役割、13Lv 以上推奨 白くもやがかった印象を与える				
プラチナ 薄い水色から灰色がかかった水の役割 11Lv 以上推奨				
グレージュ 薄い灰色 11Lv 以下推奨（灰色が濃いため） 全体的に少しくすんだ白っぽい色味が出る				

## 褪色について

オーバーカプラー方式によって、濁りが少なく色が薄くなるように褪色する設計になっている為、美しい褪色と共に、カラーチェンジも行いやすくなっています。



ビビットラインは染料が多いため濃く設定したカラー直後は、暗い印象をうけるが、3～7日程度経過すると濃く入った染料が徐々に褪色し髪の色味が出ることなく、鮮やかな色味が現れる。



## グレイカラーへの対応（グレイカラーの領域を広げる）

従来の白髪と黒髪の濃さを合わせるという考え方ではなく、透明（白髪）と不透明（黒髪）の透明感を合わせるという発想で色の彩度を深め、馴染みの良い落ち着いた色へ変化させます。基本ベースとして不透明感を出すブラウンラインに設定し、更に+cool、+warm でさらに不透明感をプラスする事で明るいグレイカラーへも対応が可能になります。（8Lv 想定の場合は 11bk で不透明（黒髪）を透明（白髪）に合わせながら染色を行う）



	+cool		+warm	
	赤味を抑えた色味を作りたい時に使用		赤味を生かした色味を作りたい時に使用	
8Lv				
	11bk:9br:+C = 2:1:3		11bk:9br:+W = 1:1:1	
	9br:+C = 1:1		11bk:9br:+W = 1:2:3	
	7br:+C = 1:1		9br:+W = 1:1	
5Lv				
	5br:+C = 1:1		5br:+W = 1:1	

※寒色系で色味を感じるグレイカラーを行いたい場合は 30%MIX（明度は下がるため注意）

## ピカラでのトーンダウンについて

今までのトーンダウンでは基本的には明度を落とすことでのトーンダウンしか行う事ができなかったため、色味をしっかり感じる仕上りにならず、どの髪も同じようなトーンダウンの仕上りになっていました。

ピカラはブラックラインとブラウンラインがあることにより、トーンダウンでも狙った色味を表現する事、色味をしっかり感じられる仕上りにする事が簡単にできるようになりました。

### ◆推奨配合比率

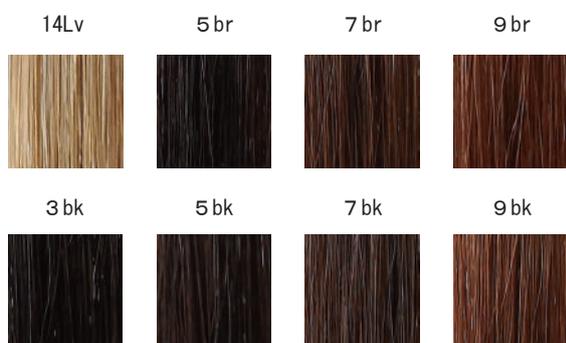
①ピカラ独特の色味をしっかり感じながらトーンダウンを表現する場合

ベースライン：ティント 3：1 オキシ 3%

②他社メーカーと同じように色味は抑えてトーンダウンをする場合

ベースライン：ティント 4：1 オキシ 3%

暖色系 (orange) 3：1の場合



寒色系 (blue) 3：1の場合



毛束ではティント量の設計上 3bk と 5bk の差は大きく、5bk と 7bk の差は前者に比べて少ないため 5bk と 7bk のトーン差は感じにくい。人頭に染める場合は、物理的な塗りムラが出るため体感的には、差が感じられます。

## グラデーションレシピ

よりシンプルな配合でトーンダウンや色自身の明度と彩度の関係をしっかりと理解したい人への参考レシピ

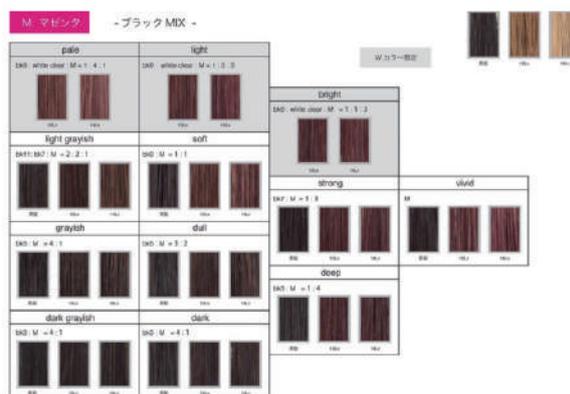
URL:<http://picolor.jp/gradation.html>



## pccs レシピ

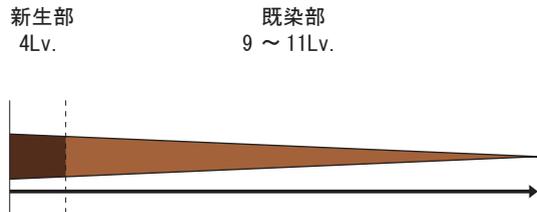
ピカラで表現出来る高明度高彩度～低明度低彩度を PCCS に沿って表現した、より自由な発想を展開する為の参考レシピ

URL:<http://picolor.jp/mbkbr.html>



ピカトラブルシューティング

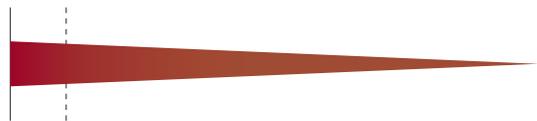
暖色系による根元が赤浮きするトラブル



左図のようにリタッチ部分と毛先にレベル差がかなりある場合暖色系は根元付近が赤浮きしてしまうことがあります。

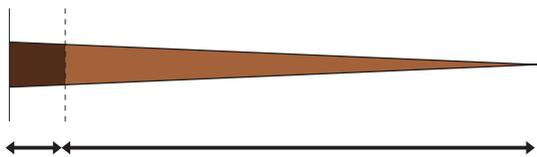
既染部のアンダートーンに含まれる黄色味の色相と残留色素に影響を受けるため生じます。

今まではある程度の彩度コントロールと、Yを抑えるための補色操作が必要でした。



根元彩度高 赤が強く見える      毛先彩度低 赤味が弱くなる

ピカラでの対応 (red, magenta, orange)

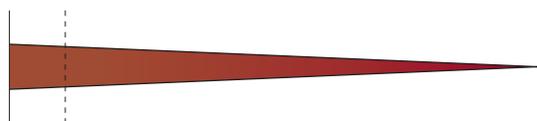


ピカラでは純粋に比率の調節を行うだけで、残留色素の補色等は考えなくて大丈夫です。

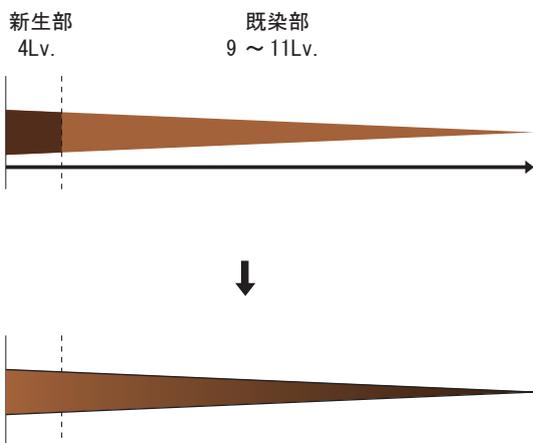
毛先に向かって自然な暖色系になります。

R : Br		R : Br
1 : 4	—————	1 : 3
1 : 3	—————	1 : 2
1 : 1	—————	1 : 1

※毛先のR比率が1 : 1以上なら全頭同じ比率でOK



寒色系による根元が明るく明度浮きするトラブル



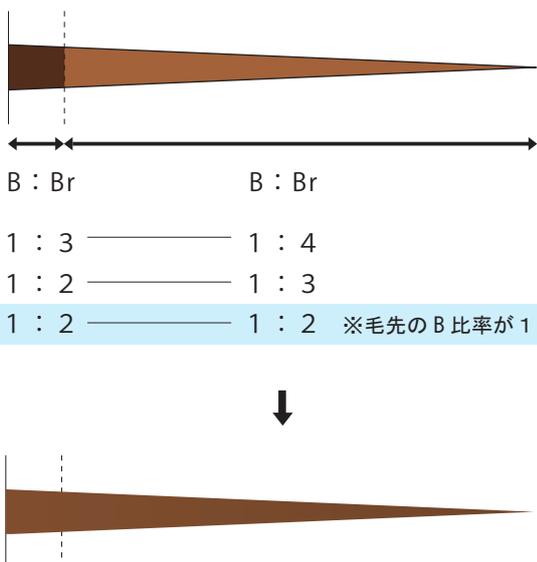
新生部はアンダーのオレンジ味に負けて色が目に見えず、毛先はアンダーのイエローと混ざって緑が出てしまう。

さらに毛先にダメージがある場合は「吸い込み」を起こしてしまう。

一度吸い込みをおこすとブリーチをしないとぬけない。ダメージも負う為心配です。

毛先のティント量のコントロールと毛先のアンダーに対する補色操作が必要。

ピカラでの対応 (cyan, blue)



従来のカラーはダメージ部は色が入りやすく暗くなりやすい (吸い込み)。

ピカラも同じようにダメージ部は暗くなりやすいが剤がシンプルのため徐々に褪色していき次回のカラー時には邪魔にならない。

## ピカラでのプライミング対応

ブリーチ後、黒染めが毛先に残って、根元が黄色、毛先が赤っぽくなってしまった時

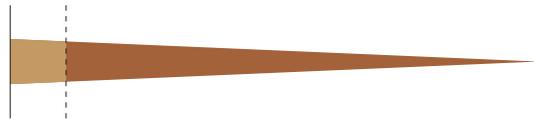
黄色  
14Lv.

黒染め部分→赤っぽく  
11Lv.

- ①7Br オキシ1.5%  
②希望色



黒染めの残留色素は赤味が強いので Br 単品を使う。  
②の希望色が赤味に引っ張られてしまうため注意。



①

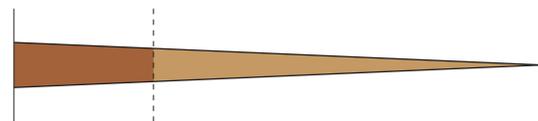
②

途中からブリーチ毛で全体の色を合わせたい場合

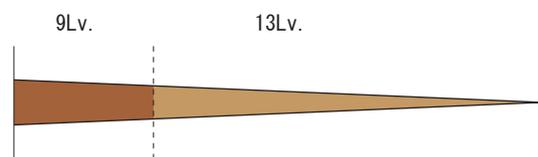
9Lv.

13Lv.

- ①7Br or 8Br オキシ1.5%  
②希望色



ブリーチ部分に先に Br で補正を行い、  
上から希望色をかぶせる。上からかぶせるため①の  
オキシは1.5%推奨。



①

②



NAKAGAWA  
HAIR SALON SPECIALTY



piCoLoR  
beyond the color



SNB



CURISSIMO